

11月も下旬になると、池の中の生物相も変化が見られます。先日、研修に必要なプランクトンを、附属幼稚園と附属小学校の池にもらいに行きました。夏には濁っていた池の水が、澄んでいました。肉眼でも見られた、小さなミジンコやケンミジンコが泳ぐ姿も見当たりません。それでも顕微鏡で根気よく観察すると、カイミジンコ、マルミジンコ、それにケンミジンコが少し見つかりました。

ケンミジンコの成長過程は、多くの水生甲殻類に共通の変態で、海にいるエビやカニにも見られます。ケンミジンコの場合、実に11回も脱皮して成長するといいます。エビやカニの場合、幼生（ノープリウス時代）には目が一つしかありませんが、成長すると2つになります。ところが、ケンミジンコの場合、成体になっても目が一つのまま、というかわった特徴があります。このことから、ケンミジンコの仲間は学名（属名）をキクロプス（*Cyclopus* sp.）という。英語読みではサイクロプスで、ギリシャ神話の一つ目の巨人の名をもらったわけです。

今回見つけたケンミジンコは、「初期幼生（ノープリウス）」と「成体」の中間の成長過程に当たる、「後期幼生（コペポディト）」でした。赤いのが「眼点」です。晩秋の水でも、比較的大型の動物プランクトンが観察できるというのは、大きな発見でした。

（2024年11月下旬／お茶の水女子大学構内）

